



カンボジアの子どもたちに教育を

2008年7月 No. 26

カンボジア便り

幼稚園は完成間近です

アジア未来学校の修了生が通う、隣村のルセイサン小学校の構内に幼稚園を開設するプログラムは3月末に工事が始まりました。

意外にと申してはいけませんが、雨期の真っ盛りにも関わらず工事は大変順調に進み、7月18日には屋根もすっかり出来上がりました。

この分ですと、当初予定通り、皆さんがこのニュースレターをご覧になる頃には、完成していると思われそうです。

この時期はカンボジアも日本と同じ夏休みなので、開園は向こうの新学期である10月を予定しています。



開園式には、日韓アジア基金・日本代表理事の江本が出席し、皆様のお気持ちをお伝えすると共に、今後の運営について現地と相談して参ります。

予定が合えば、当会創始者の禹守根(ウスゲン)も出席したいと申しております。

～目次～

カンボジアだより

幼稚園は完成間近です	1
アジア未来学校を閉校しました	2
アジア未来学校の振り返り	3
第五回「ビビンの会」	4
次回ビビンの会のお報せ	5
スタッフ紹介	5
年次総会開催通知	6
事務連絡	6

7月16日の様子です

アジア未来学校を閉校しました

2003年に開校したアジア未来学校(Asia Future School 以下A F S)は、下記のように所期の目的を達成したと判断したため、6月末を以て閉校しました。

1 生徒数の減少

この識字学校には、最大時140人を超える子供たちが学んでいましたが、最近では10名前後となりました。その子供たちも、北と南の隣村の公立小学校に通う子供が、学校の授業が終わった後、補習のために通っているものでした。

2 減少の原因

A F Sのあるアンロンコン・タマイ村に、2005年に外国NGOの支援で幼稚園が開園し、村の子供たちには幼稚園から小学校へという流れが次第に定着し、最近ではA F Sへの新入生は無くなり、村には学校に行っていない子供がいなくなりました。

そもそもA F Sは、この村の学齢期児童300人の約半数が学校に行っていないので、これを何とかしたいというプノンペン市教育・青年・スポーツ局の要請で開校したもので、現状は目的を十分達成したとの判断で閉校を決定しました。

これまでの皆様の永年のご支援に篤く御礼申し上げます。

アジア未来学校の振り返り・経過と成果

1 経過

1-1 開校まで

この学校は上記の経緯で、日韓アジア基金が建設資金と運営経費を負担する形で2003年4月に開校しました。

この村は、市中心部のスラムに住んでいた人達が、2001年12月に火災で焼け出され、行政に半ば強制的に移住させられて出来た村です。

このため、村の経済レベルは低く、小学校もお寺も無く、子供の半数が隣村のルセイサン小学校に通い、残りは学校に行っていない状況でした。

教育課程は、カンボジア教育・青年・スポーツ省制定の識字教育課程を採用しました。これは初級・1・2・3という4冊の教科書を使い、1日2時間、週5日の授業で小学校3年程度の学力が付くという内容です。

1-2 開校後半年の様子

開校1カ月後には、1クラス25人から30人で4クラス、午前午後の二部授業、生徒数100人以上という体制になり、2カ月後には5クラスで150人近くに増えていきます。

村で学校に行っていなかった子供の殆どがA F Sに入学したということです。

そうして、早くもこの年の秋には、上記識字教育課程を修了し隣村のルセイサン小学校に編入する子が17名も現れました。この子供たちは以前他で学校に通っていた子供たちで、A F Sが出来たため、また小学校に通うきっかけが得られたのです。

1-3 安定期

開校1年半後の2004年秋には、更に50人が課程を修了しルセイサン小学校に編入し、皆で喜び合いました。

A F S 出身の生徒は、学校で概して成績が良く、中にはクラスで1番になる子も居てこれも嬉しい話でした。

1-4 外乱発生

2005年秋に、二つのことが平行して起こりました。

一つは先に述べた幼稚園の開設です。ここは給食をすることで園児を勧誘しました。

もう一つは、やはり外国N G O が、公立小学校に行く子供にはお金を出すという、私たちから見るとかなり乱暴なやり方を村に持ち込みました。この結果、識字課程を修了していない生徒が一度に28人もルセイサン小学校に編入することになり、A F S の生徒数は10人以下となってしまいました。

1-5 その後

公立小学校へ通う子供たちへの補習も含め、25人位の子供たちに授業を続けましたが、幼稚園→ルセイサン小学校のルートが定着したため、村内からのA F S への新入生は無く、現在に至った次第です。

2 成果

2-1 文字を覚えた子供たち

何といても、130人位の子供が読み・書き・計算を身に付けたことです。この内25人から30人は中学に進学しています。

A F S が無ければ、多くの子が学校に行かないまま成長したでしょう。

2-2 学校に行くという習慣

ルセイサン小学校に進学した生徒は、引っ越しなどを除き殆どが学校を止めていません。これは5年生の修了率が50%と言われるカンボジアではかなり驚くべきことです。

この理由は二つあり、一つは勉強が出来るので授業が嫌にならず、落ちこぼれないこと。もう一つが、子供も親もA F S が出来たため、学校というものは毎日通うものだとの習慣が身に付いたことだと考えます。

これは文字を覚えるという実際の成果と同じか、それよりも大きな成果だと言えるのではないのでしょうか。

2-3 村への貢献

開校直後に、村が嵐と洪水に続けて襲われました。当時カンボジア事務所長だった安田氏が、被害者救済のため、行政、各N G O の取りまとめ役として大活躍をしました。

また、犬に噛まれた男の子に基金の負担でワクチン注射を実施したことや、怪我をした子の通院と費用の世話、悲しいことですが、殺人事件の被害者となった女の子のお葬式の手配と費用の負担など、本来の活動の目的では無い所でも貢献してきました。

これらの活動は、現地に密着していたので出来たことだと自負しています。

こうして振り返ると、開設準備段階から関与した私は、閉校を残念に思うと同時に、苦勞してA F S をやっておいて良かったなと改めて感じています。

(大澤)

第5回ビビンの会～友だち作ろう～ 実施報告

矢崎 芽生

6月21日(土)、「第5回ビビンの会～友だち作ろう～」を開催しました。第1回が昨年6月でしたから、ちょうど1周年に当たります。これもご参加頂いた皆さんのおかげと感謝しております。

今回の参加者はスタッフも含め36名でした。今回も「他己紹介」「お茶会」「テーマに基づくグループディスカッション」を行いました。これらのプログラムは、すっかりビビンの会の定番となりましたが、いつも好評を頂いており、楽しい時間はあっという間に過ぎ、時間が足りないという、うれしい悩みが生じています。

他己紹介は、初めて会う人同士、異なる国籍同士の方が自分の自己紹介をしたり、相手に対してインタビューをしたりして、相手のことを知っていきます。後で同じグループの人たちに相手の人のことを紹介しなければならないので、真剣です。

ただ、やはり初めて会う人同士なので、少し緊張します。今回はそんな場合に備え、他己紹介用の質問例も用意しました。なかなか楽しい質問例で「100億円あったら何をしたいですか」とか「ドラえもん友達ならどんな道具がほしいですか」といった項目があります。私はこれらの質問はしませんでした。皆さんはどうだったのでしょうか。また、この他己紹介用の質問例には韓国語や韓国語の読み方のカタカナ表記があり、韓国語に興味はあるけど、まだあまり解らないという方も、韓国語でのコミュニケーションが取れるという優れたものです。

以前からビビンの会終了時にアンケートをとっていますが、そこでこのビビンの会と一緒に企画・運営して下さる方を募集しています。ここで希望して下さった方と、今回初めて一緒に活動することができました。すごく積極的に活動して下さい、終わった今も次の活動はいつですか？と聞いて下さるほどです。

次回も一緒に活動して下さる方を募集していますので、興味のある方は是非ご連絡下さい。

また今回は、私たちの活動にいつもご支援頂いている方もビビンの会に参加して下さいました。遠く静岡や金沢からいらっしゃった方もあり、ビビンの会も少しずつですが広がってきているなとうれしく思いました。

ビビンの会終了後には前回同様懇親会を開きました。ビビンの会で話し足りないことを、またこの懇親会で引き続きお話して頂けたと思います。

さらに、有志により場所を変えてさらに3次会？まで開催されました。最後までたくさんの方が参加して下さい、本当に良かったなと思いました。

2年目に突入するビビンの会ですが、これからもいろいろなアイデアを出し、実行し、ご参加下さる方に楽しんで頂ける会を企画していきたいと思っています。

次回は9月23日(火・祝)です。いつもは土曜日なのですが、今回は祝日ということで、ふだん土曜日は参加できないという方も参加して頂けると思います。是非皆さんお誘いあわせの上、ご参加下さい。お待ちしております。詳細は次頁をご覧ください。

日韓交流イベント・「ビビンの会～友だち作ろう～」第6回

9月23日(火・祝) 14時から17時半 東京・千石 アジア文化会館



参加費用：無料：ただし、200円程度のお菓子をご持参下さい。

飲み物はこちらで用意いたします。

なお、ビビンの会終了後、懇親会もご用意しております。

17時半～20時

参加費用：一般：2,000円、学生：1,000円、留学生：500円

◆【申込方法】

同封の総会出欠葉書で8月31日(日)までにお申し込み下さい。

なお、頂いた個人情報、このイベントのためだけに使用し、その取り扱いは当会の個人情報管理規則によります。

スタッフ紹介

東京大学大学院研究生 金喜淳(キム・ヒスン)

全国のドナーの皆様、初めまして。すでにスタッフに金さんがいるので下の名前で呼ばれています、ヒスンです。

去年の4月、日韓アジア基金の創立者であるウ・スグンさんと同じく文部省の奨学生として日本に来て、社会学を学んでいます。去年日韓アジア基金の寄付会員になり、今年の春からスタッフとして活動を始めました。私が日韓アジア基金のことを知ったのは何年か前に遡ります。韓国支部のスタッフとして活躍し、カンボジアまで渡ったジョン・ヘジさんと中学からの付き合いで、日韓アジア基金のお話はかねがね聞いておりましたが、去年日本に来てようやく重い腰を上げることになったのです。



私は以前大学の時、富山大学への交換留学で日本に来たことがありました。当時日本は冬ソナが流行り始めていましたが、4年ぶりの日本はまたずいぶんと変わっていました。テレビで今日の韓国事情や芸能ニュースをリアルタイムで見られるようになってきました。冬ソナが火付け役となった韓流ブームで、かなりの方が韓国・韓国文化に興味を持ち、韓国語を習いたがっておられます。

私自身もボランティア韓国語教室で韓国語を教えていたりするのですが、私はまさに今「韓国が好き！」と素直に言える日本の方々を羨ましく思います。なぜかというと、未だ韓国では「日本のことが好き」だなんて、人前で言えないからです。いくら文化交流が進んで、いくら旅行者の数が増えても、そればかりはまだ「解禁」されてないのです。

もちろん、世の中誰にでも好かれるなんて都合のいい話はないので、5人の「好き」という人がいれば、またあと5人の「嫌い」という人がいてもおかしくないと思いますが、素直に好きなものを好きと言えないという状況はどうも変に思えてなりません。こういった複雑な事情が本当の意味で「解禁」になる日を、私は待ちわびています。日韓アジア基金の活動がその「解禁」に向けて何らかの役割を果たせたらいいなと、心から願ってやみません。

NPO法人 日韓アジア基金・日本 年次総会開催通知

日時：2008年9月23日(火・祝) 13時～14時
 場所：東京千石 アジア文化会館 101教室

どなたでも参加、発言出来ます。ただし、議決権は活動会員の方だけにあります。
 参加希望の方は、同封の葉書またはEメールにてお申し込み下さい。

アドレス：jkaf@ml.infoseek.co.jp

08年4月19日～7月7日までに会費・ご寄付を下さった方(敬称略・別枠除き五十音順)

秋元久美子	大塚 紀子	神戸 博子	鋤柄 慎吾	中村 節子	古川 起與子	村松 悦子
油谷 友加	小原 勝子	栗田 瑞枝	世利 スガ子	並木 陽子	細川 敦子	森 健造
岩見 豊子	加来 明子	合田 稔	瀧口 利章	長谷川容一郎	堀内 麻由実	柳田 文子
植原 光子	金澤 潤子	古賀 博子	健石 睦子	廣瀬 禎子	松田 明美	山崎 杜子
内尾亜津子	金子 十三松	桜井 靖子	田野辺 隆男	藤井 幸子	松本博一・操	吉村 悦子
大澤 龍	唐澤 一登	柴田 義之	塚本 美和子	藤井 昌子	峯村 公雄	米田 容子

ボランティア 野菊の会

ご入会・ご寄付のお願い

活動会員：年会費 5,000円(学生、未成年者 2,000円)

賛助会員：年会費1口5,000円(学生、未成年者 1口2,000円)

法人会員：年会費 1口10万円

ご寄付：2,000円以上おいくらでも

＜郵便局振替口座＞
 口座番号
 00180-2-25153

- ・活動会員：活動に積極的にご参加いただける方。総会での議決権がございます。
- ・賛助会員：定期的にご支援いただける方

ご支援下さった方には「日韓アジア基金ニュースレター」をお届けいたします。

国内経費は全額スタッフ有志の寄付によっており、外部の方からのご支援は全てカンボジアに送っております。

日韓アジア基金の組織

カンボジアNGO ボンロック・タマイ
 ディレクター ポット・リティ

←業務委託→

日韓アジア基金

代表 禹守根 (ウスグン)

NPO法人 日韓アジア基金・日本

韓日アジア基金(韓国)

代表理事 江本 哲也

＜お問合せ先＞

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-12-13 アジア文化会館(ABK)内

Tel:090-4456-2942(庶務・会計担当 大澤) FAX:03-3946-7599(ABK)

Eメール：jkaf@ml.infoseek.co.jp HP：iloveasiafund.com/japan/

発行人 特定非営利活動法人 日韓アジア基金・日本 代表理事 江本 哲也